

令和3年度岡山市学力アセス【結果概要】

岡山市教育委員会事務局学校教育部指導課

調査について

- 目 的**：岡山市の学力に関する課題を分析し、明確にする。
 - ・児童生徒一人一人が自己の学習状況を把握し、今後の課題を明確にする。
 - ・調査結果を活用し、各校において教科研究の推進及び授業改善を図る。
 - ・児童生徒の学力状況を把握し、教育施策に反映する。
 - ・問題作成及び結果分析を教員が行うことによって、人材育成及び資質向上を図る。
- 実施期間**：平成29年度から毎年4月に実施（令和2年度は6月実施）
- 内 容**
 - 対象教科等 小学校・・・国語，社会，算数，理科及び質問紙
中学校・・・国語，社会，数学，理科，英語及び質問紙
 - 出題内容 ア 実施学年の前学年までの学習内容
イ 基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等にかかわる内容

※ 岡山市の課題となっている問題（正答率が低い問題や重点としている問題）を継続して出題

令和3年度の実施状況

- 実施日**：令和3年4月20日（火）～22日（木）の間で実施（各学校で実施日を設定）
- 実施対象**

校種区分	対象校数	対象学年	受検者数
岡山市立小学校	89校	第4学年	5,927名
		第5学年	6,087名
岡山市立中学校	38校	第1学年	5,512名
		第2学年	5,416名

3 平均正答率

学年	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小学校 第4学年	65.3	68.5	59.7	66.3	—
小学校 第5学年	69.2	61.7	66.8	61.5	—
中学校 第1学年	72.5	58.6	63.0	59.3	82.3
中学校 第2学年	71.4	59.2	55.3	59.4	58.1

調査結果のポイント

【学力調査】

- 「課題と捉え継続的に取り組んだ問題」の過去5年間の推移を見ていくと、約6割の問題（145問中85問）で正答率が上昇しており、学力に関する課題の改善が見られる。さらに、その中には10ポイント以上の上昇が見られる問題が半数以上（全体の3割以上）あり、基礎・基本の定着が進んでいる。これまで取り組んできた授業改善の成果と言える。
- 無解答率については、H29からR2までの間で最も高かった値と比べると、R3には減少しているものがほとんどであり、粘り強く問題に取り組む児童生徒が増えてきている。
- 複数の情報を関連付けて考える問題や、表現力を必要とする記述式問題においては、依然として正答率が低いことや、無解答率の改善が必要なことが明らかになっており、この課題の解決のためには、現在の取組を継続するとともに、新たな一手が必要となっている。

【質問紙調査】

- 学校の授業に関するほぼすべての質問において、肯定的な回答が増加しており、授業の改善を感じている児童生徒が増加していることは成果である。
- 家庭生活に関する質問においては、学習時間が減少している一方で、メディアの使用時間がかなり増加している。今後は、児童生徒の学習に影響を及ぼしている様々な要因を把握して、指導に生かしていくことも重要であると考えている。